

目標および成果指標の設定

団体名：

記入者名：

上位関連計画にみる地域の将来

- 地球温暖化対策推進法や政府の目標：2013年度比で2030年までに46%削減、2050年までにカーボンニュートラル達成
- 第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22～24%、2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量／実質GDP）35%減。
- 現在の人口：●人、将来：●人（2030年）、●人（2045年）（日本の地域別将来推計人口（平成30年推計））
- 地域の総合計画に示された将来目標 現状：●●→目標：●●（●年）、現状：●●→目標：●●（●年）
- 地域の環境分野の上位計画の将来目標 現状：●●→目標：●●（●年） 現状：●●→目標：●●（●年）

①ありたい未来
※どのような地域にしたいのか、何を引き継いでいきたいのかなど、具体的にお書きください

②具体的な取組
※誰が何をするのか、主なものをお書きください。

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値	実績値	単位
				（●●年度末）	（●●年度末）	
環境						
経済						
社会						

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値	目標年度	目標値	単位
				（●●年度末）	2030-2050年度	（●●年度末）	
環境							
経済							
社会							

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

※環境・経済・社会がどのように関係し合い、相互に高まっていくのか具体的にお書きください

目標シート記載例（特定非営利活動法人 とくしまコウノトリ基金の例）

上位関連計画にみる地域の将来

- パリ協定における日本の目標：2013年度比で2030年までに26%削減、さらに2050年までに80%削減
- 第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22～24%、2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量/実質GDP）35%減。
- 現在の人口：54,209人→51,812人（2030年）、45,410人（2040年）、38,370人（2050年）
- A市環境基本計画 環境ボランティア数 490人（2015年）→600人（2020年）

②具体的な取組

※誰が何をするのか、主なものをお書きください。

- コウノトリブランドの商品開発：コウノトリレンコン、コウノトリグッズの開発（市・JA・NPO）
- エコファーマー技術の普及：餌場となる環境にやさしい農法の普及啓発（県・JA・生産者）
- エコツアーの実施：ツアーガイドの育成とモデル事業の実施（県・市・NPO・旅行会社）
- 募金の実施：募金による保全活動の財源構築（市・NPO）
- ブランドの情宣：観察会の開催、コウノトリブランドの発信（県・市・NPO）

①ありたい未来

※どのような地域にしたいのか、何を引き継いでいきたいのかなど、具体的にお書きください

→ ●コウノトリがいる地域

当地域は、環境にやさしい農業が農地の生物相を豊かにしコウノトリの野外繁殖・定着を実現させていることをアピールし、そこで生産される農産物を大消費地に届ける。都市（消費者）はコウノトリを支えている農産物や地域の取組の価値を認め、その農産物を消費することで地域の取組を支援する。

これによって人と金が都市から地域へ流れ、農産物の再生産と環境保全の取組が維持・拡大できる。

農産物をはじめとしたコウノトリブランドの拡大や、多様な生物が生育する環境保全という地域の信念に共感し、若者をはじめ様々が人材が定着し、環境保全と生産の担い手が確保される

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	実績値 (2020年度末)	単位
環境	地域の取組状況	コウノトリレンコン生産者数	10	20		人
	地域の取組状況	ピオトープ設置数	2	3		カ所
	地域の取組状況	観察会の参加者数	0	50		人
経済	財源が充実する	コウノトリ関連商品数	0	2		商品
	地域外から稼いでくる	エコツアー実施件数	0	2		回
	財源が充実する	寄付者数	0	50		人
社会	行動が変わる	エコファーマー技術講習会開催	1	2		回
	行動が変わる	ツアーガイド講習会回数	0	3		回
	郷土への愛着・地域の誇り	メディア掲載回数	20	25		回

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	動植物の状況	コウノトリの繁殖・営巣地拡大	1	1	2050年度	4	市町
	農地の状況	環境にやさしい農業取組面積	100	-	2030年度	150	ha
	地域の取組状況	ピオトープ設置数	2	2	2030年度	8	カ所
経済	財源が充実する	コウノトリレンコン販売額	20	25	2030年度	50	百万円
	地域外から稼いでくる	エコツアーの売上額	0	0	2030年度	800	百万円
	財源が充実する	寄付金額	0	0	2030年度	3	百万円
社会	行動が変わる	環境ボランティア数	550	700	2030年度	1,000	人
	関係人口	ファンクラブ数	0	-	2030年度	1,000	人
	郷土への愛着・地域の誇り	地域を誇りに感じる人の割合	40	-	2030年度	80	%

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

コウノトリがいる地域を目指すには、コウノトリの餌場となる農地が必要である。このため、餌場となる農地を作るための農法の教育として、エコファーマー技術の普及に向けた講義を多く開催し、農法を営む農業者が増えることで、餌場の農地面積が増え、作物の域内販売額も増加する。また、コウノトリレンコンの商品開発を進め、エコツアーを実施することで、域外からの収益増を実現する。

こうした取組を社会発信することで、地域の行動変容、郷土愛の醸成を図るとともに、関係人口の増加を図る。

当面の活動の持続化を図るため、寄付金を募る仕組みを立ち上げる。将来的にはファンクラブに拡大し、活動主体としての事業参画を図るべく、協力を求めていく。

※環境・経済・社会がどのように関係し合い、相互に高まっていくのか具体的にお書きください